

# 始良市衛生協会だより

## 環境学習バスツアー、ごみ減量やリサイクル、環境問題などについて学ぶ。

3月3日（土）に環境学習バスツアーを実施しました。これは環境問題に対する理解と関心を深め、積極的に環境保全活動を行う意欲を高めるために行ったもので、30名が参加しました。

まず、あいら清掃センターの視察ではごみが焼却処分される工程を学びました。

施設内を見学すると、大量のごみが焼却される様子から、自分たちの生活からこんなにも多くのごみが発生しているのかと驚いた様子でした。

また、最終処分場では、金属の燃え殻などが毎日約100kgのペースで埋め立てられている現実を間近に目にし、分別の大切さを実感していました。



【可燃ごみの処理方法を学ぶ参加者】



【中央制御室でごみをつかむクレーンを体験する子どもたちの様子】



次に始良リサイクルセンターでは、ごみを減らし、資源を有効活用するために始良市で取り組んでいる資源物の分別収集について学びました。



【びん類の分別方法を再確認する参加者】



【中間処理の工程を学ぶ参加者】

ツアー最後のかごしま環境未来館では、地球規模で発生している環境問題や人類の歴史から、人間が行ってきた行為やその代償について学ぶとともに、未来のために私たちが何を行っていくべきか考える良い機会となりました。



【貧困や水質汚染、土壌汚染によって過酷な生活を強いられる世界の子どもの現状を写真から感じとる参加者】



【展示ブースで環境について学ぶ参加者】

### ◆ 参加者の感想 ◆

- ・900℃の高温で焼却され、有害物質などが一切発生しないことが理解でき、安心した。
- ・ごみ処理のために多くの処理費が税金からまかなわれていることが分かった。
- ・広報紙でごみ減量や分別の記事を参考にしている。今後も賛同者が増えるように根気良く続けて欲しい。
- ・可燃ごみの中に多くの金属などが混入していることにびっくりした。
- ・分別のことは分かっているつもりだったが、さらに勉強になることがあった。
- ・世界の環境問題に目を向けると悲しくなった。自分たちの幸せな環境に感謝し、未来に残すことを考えなければならない。



## 協会理事31名が参加。災害廃棄物の処理現場を学ぶ

12月25日、協会の理事が熊本県益城町にある熊本県災害廃棄物二次仮置場を視察し、研修を行いました。

この施設は、平成28年4月に発生した熊本地震において、被災した家屋などを広域的に処理する施設で、益城町の周辺7市町村で発生した被災家屋13,188棟(83.3万トン)の災害廃棄物の内、約20万トンを約2年で処理するために設置されました。

まず、施設内を視察する前に、災害廃棄物の処理計画や二次仮置場の施設概要などの説明を受けました。二次仮置場ではコンクリートがらや木屑、廃瓦、混合廃棄物、畳、布団が、再生利用するために破砕・選別の中間処理が行われます。

また、二次仮置場周辺には避難者が生活する仮設住宅地域があるため、細やかな環境モニタリングが行われ、騒音や振動、粉じん、悪臭などの環境保全対策がなされています。



【施設概要や処理計画への質問を行う様子】



【混合廃棄物の選別を行う大型設備】



【大量に積み上げられた木屑や廃木材】



## 廃食油リサイクルへの広報を強化

植物性廃食油を資源物集荷所に持参した方に感謝の意を込めて、粗品を提供するとともに、「廃食油がどのように再利用されるか」や「ごみ削減や財政効果」などの詳しい広報を行いました。

また、この事業には8つの自治会が参加し、それぞれの資源物分別収集活動の際に、広報活動を展開するなど、廃食油の回収率の向上にご協力いただきました。



【広報用チラシと粗品】



## 廃食油石けんを小学校へ贈呈

市民の皆さんから回収した植物性廃食油は、バイオディーゼル燃料に再資源化され、ごみ収集車などで活用されていますが、今回は、集められた廃食油の一部から廃食油石けんをつくり、市内の小学校17校に計1,100個を贈呈しました。

また、自然環境を大切にするために廃油をそのまま台所から流してはいけないことなどをわかりやすく説明するチラシも配布しました。

贈呈した石けんは、水質浄化作用のあるEM菌も使用されていますので、各学校の子どもたちによって、手洗いなどに使われる際に河川環境への好影響も期待されます。



【贈呈した廃食油石けん】

問合せ 衛生協会事務局

◆市役所本庁 生活環境課 生活環境係 TEL66-3189